

二十九 絵 元 結

蓼 蓼 胡 茂
し 蓼 鈴 緒
茂 和 香

蓼 胡 満 佳

三十 橋の上から
だるまさん

松 峰 照 香
松 峰 照 香

蓼 胡 茂

(順)平成五年度
(糸)平成二十七年

当日の審査員

長 生 松 代

三十一 江戸さして

扇 扇 よし和
和 弓

土 川 き く

■ 令和五年十二月二日(土) 午後一時開演

■ 東京証券会館ホール

(地下鉄東西線茅場町)
〒(三六六七)九二一〇

主催・公益社団法人 日本小唄連盟

<http://kouta-renmei.org>

第三十一回

若樹会

ご挨拶

師走の候、皆様お健やかに過ごしの事とおよろこび申し上げます。
扱、日本小唄連盟若手育成事業の一環として平成三年に発足致しました
小唄「若樹会」もお陰様で本年は第三十一回を迎え、これからの小唄界
を担う若手の登竜門として定着し益々充実した内容となりました。
日本小唄連盟は、この会が若い方々の研鑽の場となり、一人でも多く、
すぐれた演奏家が誕生することを念願いたしております。
皆様様におかれましては、この「若樹会」を温かくお見守り下さり、
格別のご支援を賜ります様、お願い申し上げます。

令和五年十二月吉日

公益社団法人 日本小唄連盟

一部（糸の審査・太字）

一 白 扇 田村 成美 林 真由美

二 清 心 田村 成美 山田 奈生子

三 片 糸 の 春竹 利香 春竹 香燕

四 花 の 雲 田村 成美 田村 花枝

（唄の審査・太字）

五 夜 桜 松峰 照あや 松峰 照

六 お互 い に 井筒 幸誠 井筒 幸一

二部（若樹賞受賞者・太字）

（唄）令和四年度
（糸）令和元年度

七 紅白の繭玉飾り 稲舟 妙一 松岡 惚れ 替稲舟 一華

八 心で返し お月さんホイ 田家松 小峰 井上 紀恵

九 十三夜 わしに逢いたくば 長生 千代栄 長生 松代

令和元年度
十 浅草詣り 土川 きく紫乃 年に一度 土川 きく

平成三十年度
十一 河太 郎 稲舟 一華 木枯し の 替稲舟 妙寿

平成二十八年度
十二 辰巳よいとこ 井上 紀恵 虫の音 田家松 小峰

平成二十七年
十三 神 田 祭 蓼 佳ほる 蓼 佳壽樹

十四 向こう通るは あごで知らせて 扇 和敬 和弓

平成二十六年
十五 雪のあしたの屋敷け つれてのかんせ 蓼 満ゆ佳 蓼 胡満利

十六 待ち詫びて やくのは野暮 春竹 香燕 春竹 利香

平成二十五年
十七 築地明石町のび上り 蓼 胡満佳世 蓼 胡満佳乃

（唄）平成二十四年度
（糸）平成三十年度
十八 木枯らし 二日待たせて 春竹 利央 春竹 利保

平成二十年度
十九 うらぶれし しばらくは 小唄 幸三卯 小唄 幸三希

平成二十一年
二十 袖 屏 風 春竹 利保 春竹 利香

（唄）平成二十一年
（糸）平成二十七年
二十一 年の瀬や 曲 独 楽 田村 花枝 田村 弓路

平成十三年
二十二 柳橋から 水の深さ 松峰 小玉 松峰 照

平成十一年
二十三 残る月 とめてもかえる 蓼 史ま由 蓼 鈴緒

二十四 八つ尾の女 松峰 弥生乃 替松峰 照

（唄）平成十年度
（糸）平成三十年度
二十五 鐘がなる 春竹 利香 春竹 利保

平成八年度
二十六 吉野山 三日月の山 蓼 鈴緒 蓼 史ま由

二十七 ちよいとでるにも 虫が好くのか 井筒 綾奈美 井筒 奈美妙

平成六年度
二十八 春 浅き 蓼 胡満和 蓼 胡満和 替蓼 和多加